小学校低学年・山陽新聞社長賞

「桃太郎伝説」のまち ももたろう新聞

岡山市・開成小３年

森本　葵

寸評

「ももたろう伝説」ゆかりの場所を訪ね、丁寧な取材成果をまとめています。内容が充実していて読み応えがあり、新たに知った情報への素直な驚きも伝わってきます。

なぜ岡山が「桃太郎伝説」のまちに!?

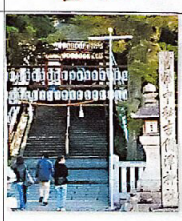
岡山と言えば『ももたろうのまち』となった理由を調べました。

理由① 岡山に伝わる二つのうら伝説があった。(吉備津神社に伝わる吉備津宮えん起、吉備津彦神社に伝わる吉備津彦神社えん起に伝説が書かれていた。)

理由② 昔話に出てくるアイテムやキャラクターが岡山には、そろっている。

- 吉備団子→岡山ではキビのさいばいがさかんであった。岡山の昔の名前は吉備。キビと吉備を糸でくっつけて吉備団子と名付けた。
- ももたろう→吉備津彦命がももたろうのモデルではないかと言われている。
- 桃→上東遺跡で出土のももの種は全国でもめずらしい量(9,606個)で古くから岡山とももが深く関係している。
- 鬼→うらは村の人に悪事をし吉備津彦命にたいじされた。
- 家来→犬飼部の犬飼健命(猿飼部の楽々森彦命 鳥飼部の留玉臣がお供のモデルではないかと言われている。

昔話が日本遺産に



ももたろうは日本の昔話の一つ。ももの実から生まれたももたろうがおじいさんおばあさんからきび団子をもらって犬、さる、キジを家来にし、鬼ヶ島まで鬼たいじをするお話です。

このお話がつくられた年代は、正かくには分かっておらず、室町時代終わりから江戸時代はじめとされています。お話の由来は、全国に点在しています。その中で「ももたろう伝説」の生まれたまち岡山が日本遺産としてえらばれました。

ももたろう新聞

「桃太郎伝説」のまち

2022年 令和4年11月2日

発行者 開成小学校 3年 森本 葵

アンケート

開成小学校三年生19名にももたろうに関するアンケートを行いました。

①ももたろうのお話を知っていますか？	②ももたろうといえば岡山のイメージがありますか？	③ももたろうのお話のもととなった場所を聞いたことがありますか？または行ってみたことがありますか？	
はい 19人	はい 19人	はい 11人	いいえ 8人

〈結果〉

ももたろうといえば岡山だという認知度は高く、ももたろうのゆかりの地を知っている人は半数以上であることが分かりました。

私のおすすめスポット

吉備津神社 お釜殿

(大きなしゃもじにびっくりしました。右島県の宮島のものだそうです。)

釜をたいた時に鳴る音の強弱、長短等で吉凶をうらう吉備津神社の神事。この釜の下には(2m 10cm)うらの首がまっている。

私も神事にて占ってもらいました。神職しあそ女二人が向き合い、神事を行っていきます。あそ女が玄米をせいろうに入れると「ブオーン」と音が鳴りがきました。その音はやさしいひびきこ鬼じ、うらがやさしく声をかけてくれている様に思えました。

吉備津神社 艮御崎宮

本殿内の北東に鬼神とされるうらがまつられています。うらは吉備津彦命につかえたともいわれ強い神様になったそうです。鬼面はふりかけとのことですが、はっカがありました。

インタビュー

うらと鳴釜神事について吉備津神社の神職 上西謙介さんに話をうかがいました。

Q1 うらは村を苦しめる悪い鬼なのか鉄の作り方を伝えたい鬼なのか、どちらが本当のうらなんでしょうか？

A、吉備津宮えん起ではうらが鉄を伝えたなどのきこいはないです。うらは村の人の水を油にかえたり、口から炎を吹きだす女子供をさらったりしていた。人が生活しにくいような悪事をはたらいていた鬼だった。

Q2 釜の下のうらの首をいままでだれかがたしかめてみたことはありますか？

A、ない

Q3 釜は六十年に一度かえると聞いていますが今使っているのは、いつかえたものですか？

A、今使っているのは、昭和の物です。あそ地区の職人がいなくなり六十年ごとにはかえれなくなっています。

Q4 今までの神事の中でびっくりするような音、ふしぎな音はありましたか？

A、大きな音ではトのお告げまで聞こえたと聞いている。反対に音がならないこともある。ふしぎなことは、音が鳴らなかった方が気になり、びょう院に行くとびょう気がみつかったと言う話を聞いたことがあります。

Q5 のりとをほう上し、終わるころにはふしぎと音が鳴りやむと聞いています。

Q6 たいた米はどうしているのですか？

A、昔は、たいたものをおにぎりにしてめしあがっていただいていた。今は、コロナのえいきょうもありそれはできない状況です。

A、やまないこともありますが、やまないこともありますか？また吉凶を教えてくれることはできますか？

A、やまないこともあります。やんでも、また鳴ることもあります。神職やあそ女がどうだなどは、伝えられないのがしきたりです。みなさまが感じたものが真実で自分の心ではんだんすることなのです。

編集後記

今日ももたろう伝説ゆかりの地をたくさんめぐり学ぶことができました。岡山にはまだまだすごい所があるのでいっぱい知って伝えていきたいと思います。最後にアンケートにきょうかしてくれた方インタビューにきょうかしてくれた上西さんありがとうございました。

※お釜殿、艮御崎宮は特別な許可を得て撮影掲載させて頂いています。

（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。